

建築歴史・意匠部門 ―パネルディスカッション (1)

歴史的建築データベースのこれまでとこれから

[資料あり]

9月12日(火) 9:00~12:30 オンライン 第I室

司会 玉田浩之(大手前大学)
副司会 清水隆宏(愛知工業大学)
記録 前川 歩(畿央大学)

1.主旨説明 山崎幹泰(金沢工業大学)

2.主題解説

①日本建築学会編歴史的建築総目録データベースのこれまで

池上重康(北海道大学)

②災害調査システムの実働

小谷竜介(文化財防災センター)

③アジア近現代建築データベース

林 憲吾(東京大学)

④京都工芸繊維大学美術工芸資料館における建築資料の収集と活用をめぐって

松隈 洋(京都工芸繊維大学)

⑤フランダース建築協会(VAi) 建築アーカイブズのコレクション・データベース

三宅拓也(京都工芸繊維大学)

3.討論

4.まとめ 大橋竜太(東京家政学院大学)

日本建築学会では建築歴史・意匠委員会直属の「文化財建造物リスト作成ワーキンググループ」を1996年に立ち上げ、新時代の歴史的建築リストの作成に取り掛かった。4年後には「歴史的建築リスト整備活用小委員会」に改組して常置の研究委員会となり、同時に4年間の討議を踏まえて、データベース「日本建築学会編 歴史的建築総目録」(General List of Historic Buildings、略称 GLoHB-AIJ)のインターネット上での公開を2000年から開始した。2015年度より上記委員会は「歴史的建築データベース小委員会」と改称し、GLoHB-AIJも「歴史的建築総目録データベース」に名称を改め、単なる「リスト」に留まらず、歴史的建築に係るメタデータ(画像、位置情報、報告書などデジタル化されたデータ)も付加できるようにデータベースに改良した。国、都道府県、市区町村の指定・登録文化財のみならず、文化庁委託調査(緊急民家調査、近世社寺調査、近代化遺産調査、近代和風建築調査

など) による未指定・未登録の建物や、本会編『日本近代建築総覧』およびその補遺に掲載された建築なども含む、日本国内で最大規模の歴史的建築データベースである。2011 年の東日本大震災を始め、被災した歴史的建築調査（通称「文化財ドクター派遣事業」）の基礎台帳として、また 2015 年度から開始した近現代建造物緊急重点調査事業（建築）における調査フォーマットとして、多方面で活用されている。

2009 年度大会研究協議会では、歴史的建築総目録データベースの可能性を討議し、将来像を提示した。時を経てデータベースを巡る環境は著しく変貌し、それに合わせて改良を続け、様々な機能を付加してきた。昨今の IT 技術の進展を踏まえ、今後の展望を探っていきたい。